

生 保護司会だより

人はみな、
生かされて
生きてゆく。
更生保護ネットワーク

鴻巣地区保護司会 (鴻巣市・北本市・桶川市)



道の駅 べに花の郷おげがわ (桶川市)

社会を明るくする運動 作文コンテストへの御協力について

さいたま保護観察所
所長 猪間 徳子



鴻巣地区保護司会の皆様には、平素から更生保護の諸活動に御尽力を賜り、誠に

ありがとうございます。
社会を明るくする運動の作文コンテストは、当県ではあまり盛んとは言えず、他の首都圏庁と比べ応募総数が1桁少ない状態です。鴻巣地区からも、令和6年度は小学生2名、中学生22名の応募がありました。それが令和7年度は、皆様が学校に強く働き掛けてくださった結果なのか、小学生19名、中学生696名と激増し、鴻巣市の中学生の作文が県内の最優秀賞に当たる県知事賞に選ばれました。
このコンテストの審査について、これまで当庁では、本省が委託している外部業者に全作品を出して一次審査に代えていたのですが、今後は他庁と足並みを揃え、各地区に一次審査を担っていただくこととなりました。
皆様には、一層の御負担をおかけすることとなり大変恐縮ですが、素晴らしい作品も多数ありますので、何とぞ御理解・御協力を賜りたくお願い申し上げます。

保護司会だよりによせて

埼玉県更生保護観察協会
鴻巣支部副支部長



桶川市長 小野 克典

鴻巣地区保護司会の皆様におかれましては、日頃より、地域の更生保護活動に多大なる御尽力を賜り、心から御礼を申し上げます。
近年、県内における刑法犯認知件数は増加傾向にあり、住宅対象侵入窃盗や自転車盗など、生活に身近な犯罪が多数発生しております。
これらの犯罪は、再犯率が高く、犯罪が繰り返されない、新たな被害者を生まない社会の実現に向け、再犯防止への取り組みの重要性が高まっております。
そのような中、昨年6月には、刑法が改正され、受刑者一人ひとりの特性に応じた処遇の充実、社会復帰支援など再犯防止に重点をおいた拘禁刑が新たに創設されました。これに伴い、地域における支援の一翼を担う保護司の皆様は、これまで以上に、欠かすことのできないものとなっております。

当市といたしましても、保護司の皆様との連携を更に深めながら、社会的な課題解決に向け諸施策を推進してまいります。より一層のお力添えを賜りますようお願いいたします。
結びに、貴会の益々の御発展と、会員各位の御活躍を心よりお祈り申し上げます。

社会を明るくする運動

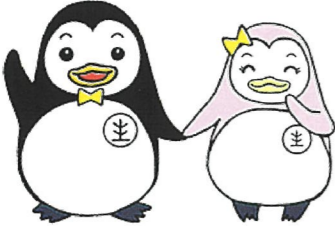
鴻巣地区保護司会
会長 大島 通人



鴻巣地区保護司会では、毎年7月に、社会を明るくする運動として、

3市の更生保護女性会と合同講演会を行っています。昨年は、鴻巣市文化センターで開催し、多くの皆様に参加していただきありがとうございました。
また、小中学生による作文コンテストでは、多くの作文を出品していただきました。中でも中学生の部では、鴻巣中学校の瀬尾君が県知事賞を受賞されました。誠にめでたくございます。

今年も合同講演会を北本市文化センターにて開催を予定しておりますので、多くのご参加をお願いいたします。小学生の作文コンテストも行いますのでよろしくお祈りいたします。今年も暑い中での啓発活動になると思いますので、健康に留意され、皆様のご参加をお待ちしています。



お世話になりました

さいたま保護観察所
保護観察官 山岸 繁



光陰矢のごとし。思い返すと鴻巣地区の担当の3年間は、長かったような短かったような。あつという間でした。保護司の皆様をはじめとする関係者の方々は、妄想癖の強い私が主任官だったせいで、ご苦労とご迷惑をおかけしました。

私と更生保護との関係は、昭和61年4月に採用された水戸保護観察所を振り出しに、さいたま保護観察所での再任用が切れる令和8年3月の40年間をもって終了となります。
その後の私の予定は、特にないのですが、家族から疎まれることがないように気をつけて、出来るだけ謙虚に生活しようと考えています。

この原稿を書くにあたって、歌手井上順の「お世話になりました」という歌のフレーズが、何故か浮かんできました。皆様のご活躍とご多幸をお祈りしています。
3年間ありがとうございました。さようなら

重要性高まる保護司

鴻巣警察署 署長 古川 英宜



鴻巣地区保護司会の皆様には、日頃から犯罪者への立ち直り支援活動、再犯防止活動、少年の非行防止等犯罪や非行のない明るい社会の実現に向けた活動を推進されていることに、心から敬意を表します。

また、警察行政各般にわたり御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。
県内の犯罪情勢は、平成17年から減少傾向にあった刑法犯認知件数が令和4年に増加に転じ、以降は増加の一途を辿っており、検挙人員に占める再犯者の割合は5割に近づき、県下平均を下回る鴻巣警察署管内で令和6年は4割を超えるなど、高水準で推移しています。

このような情勢にあつて、保護司の皆様的重要性は高まっていると思われま。警察としても、犯罪者の検挙のみならず、その更生と再犯防止に取り組んでまいりますので、引き続き、御協力くださいますようお願い申し上げます。
結びに、鴻巣地区保護司会のみならずの発展と皆様の御健勝を心から祈念いたします。

第75回 社会を明るくする運動

7月を強調月間とする“社会を明るくする運動”～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くために法務省が主唱した全国的な運動です。

「ほっとけない精神」で地域と連携して

鴻巣地区更生保護女性会 会長 西崎良枝

鴻巣地区更生保護女性会は、令和9年2月で発足から60年になります。

非行や犯罪のない社会を築くために県連盟の「支え合い 地域とつながり 地域につなげる」を活動指針として、より地域に根差した更生保護女性会を目指して活動しています。

私たちに期待されることは、地域の潤滑油になり「ほっとけない精神」をもって行動を継続していくことが大切だということです。

数年前の秋、市の商工観光課で管理している「花のオアシス」で、球根植えのボランティア不足で時間がかかった話を聞きました。翌年からボランティアとして参加し、今年度も市民と共に春に色とりどりに咲くチューリップを楽しみに2万球を超える球根植えに取り組みました。

人と人のつながりが希薄になったこの頃、「ほっとけない精神」で地域の人たちや関係者と連携し活動につなげていくことが大事だと思いました。



花のオアシス (鴻巣市) にて

音楽の力で寄り添う 第11回 社明講演会

桶川支部 保護司 山中敏正

第11回社会を明るくする運動講演会が7月6日(日)、鴻巣市文化センターの小ホールで、アイリッシュハープ奏者の永山友美子さんによる講演会が行われました。

当日、講師としてお越しいただいた、永山さんは武蔵野音楽大学を卒業後、ウィーン国立アカデミーへの参加や、文化使節として東欧諸国を訪問し、ユニセフ国際大会に出演するなど、国際的な経験も豊富でオペレッタやアイリッシュハープを通じて音楽の素晴らしさを多くの方々に伝えています。

講演会では、非行防止に向けて様々な活動をしているなかで、ご自身の経験を元に、立ち直りの支援の重要性や、社会で孤立しがちな人々への理解を深める大切さについてお話をされています。

今回の講演会でも、「植生の宿」や、「夏の思い出」など演奏を挟みながら、アイルランドの伝統楽器であるアイリッシュハープの美しい音色に加え、ユーモアを交えたお話で会場の心をつかみ、音楽の素晴らしさや命の大切さ、子育てに関するお話もされて、時折涙組む場面もあり、会場にいた方達も思いを共有していました。

私も、永山さんのお話を聞き、音楽の力で人々に寄り添い、より良い社会を築こうという強い思いを持っている方であると分かった講演会でした。



講師 永山友美子さん(右)と大島保護司会長(左)

音楽の素晴らしさや命の大切さ、子育てに関するお話もされて、時折涙組む場面もあり、会場にいた方達も思いを共有していました。

私も、永山さんのお話を聞き、音楽の力で人々に寄り添い、より良い社会を築こうという強い思いを持っている方であると分かった講演会でした。



次代を担う子どもたちに

鴻巣支部 保護司 津田悦子

保護司会活動の大事な原点である「罪を犯した人が地域で孤立せず、再び過ちを犯さないような環境づくりを推進する」ことを目標とした『社会を明るくする運動』が毎年7月を強調月間として全国で展開されている。小中高の各学校にポスターの掲示と作文コンテストへの参加を呼びかけ、また、更生保護女性会との合同講演会も開かれている。

今年度のめざましい変化は、作文コンテストに中学生の応募者が著しく増え、その中から鴻巣中学校の生徒が県知事賞を受賞するという栄誉を得たことである。

次代を担う子どもたちに、犯罪とは何かを自分ごととして考えるきっかけを持ってもらえたことは、今後の生きかたに大きなプラスになるのではないと思う。ひとえに諸先生方のご指導の賜物と考える。

日々の生活の中にも犯罪や非行が身近にあることを忘れず、明るく元気に過ごしてほしいと願う。



中学3年生に配布したリーフレット及び蛍光ペン



埼玉県立鴻巣高等学校を訪問



鴻巣市立鴻巣北中学校を訪問



駅頭広報活動 鴻巣駅



駅頭広報活動 吹上駅



駅頭広報活動 北本駅



駅頭広報活動 桶川駅

励ましの言葉と笑顔

鴻巣市社会福祉協議会

会長 春山 一雄

保護司の皆様には、地域社会の安全と安心のため日々ご尽力いただき、心より感謝申し上げます。私自身も、約15年前に鴻巣地区保護司会の事務局を務めさせていただいたご縁から、今回寄稿の機会をいただきましたことに改めて感謝申し上げます。

さて、鴻巣市社会福祉協議会では、イベントで赤い羽根共同募金に百円以上のご協力をいただいた方に「筆みくじ」を引いていただけます。吉凶のないおみくじには心に響く言葉が記され、募金を通じて温かな思いを受け取ることができま

す。私が引いた「筆みくじ」には「どうありたいか。何をしたいか。誰といたいか。自分に問いかけて生きよう。あなたの人生、あなたが決める権利あり！」とありました。再任用職員を終え、新たな人生の一步を踏み出した私にとって、心強い励ましとなりました。

振り返りますと、当時の保護司の先生方の笑顔が浮かび、励ましの言葉によって多くの人々が救われたことを思い、改めて深い感謝の念を抱いております。

AI時代を迎えても、残さなければならぬもの

鴻巣市立鴻巣中学校

校長 服部 幸司

毎年、夏休み前に一本の電話とご来校をいただき、本作文コンテストの依頼を校長室で受けます。

毎回、保護司会と更生保護女性会（犯罪予防活動や子育て支援活動などを行うボランティア団体）のご婦人の方の熱意と行動力には圧倒されていましたが、特に令和7年度の訪問は、鬼気迫るものでした。

その迫力を胸に収めながら、本校の人權教育担当の教員に「作文、何とかしてくれないか。」と伝えました。その担当は、職員室では口数が少なく、シャイな風情ながら、その社会科授業には定評があり、多くの生徒が授業を楽しみにしている男性教員です。

教育の最前線で一人一人の生徒に向き合っている教員の本気は、生徒の心に届きます。それが今回の300点近い応募数や瀬尾君の県知事受賞に繋がっているのではないかと私は考えています。

やはり「人は人の中で育つ」のだと実感しました。そして、本作文コンテストが75回も続いている理由の一つを理解した気がしました。

水戸刑務所を訪ねて

桶川支部 保護司 長島 豊治

令和7年6月18日、水戸刑務所を視察しました。

水戸刑務所の歴史は古く、1871年（明治4年）旧水戸藩の徒刑場にまで遡り、その後、名称変更、移転を経て、現在ひたひたなか市の国道6号沿いにあります。刑務所の中の視察では、洗濯ばさみを作るところ、祝封筒を束ねるところ、彫刻刀で作品を彫りだしているところなど、受刑者の息遣いが聞こえるほど作業の様子をつぶさに視察することができました。

6月からの刑法改正で、「拘禁刑としての作業が、目的ではなくなり、再犯防止に向けた手段として新たに動き始めた」との説明を受けました。

視察後は、那珂湊の宿でおいしい料理に舌鼓をうち、交流を深め、翌日の宇宙センターでは宇宙に夢を膨らませるとともに、小さな地球のあちらこちらでの戦争が終結し平和が訪れることを願った次第です。



保護司会施設参観 水戸刑務所

女性刑務所の転換点に立ち会う

鴻巣支部 保護司 小川 秀樹

3年前、友人と自転車で栃木県内を走ったことがある。その際、森の向こうに見えた建物群が栃木刑務所だと教えられた。ずいぶん市街地から離れた、静かな立地だったことが記憶に残っている。

昨年12月2日、社明運動にかかわる皆さんと、初めて所内を見学する機会を得た。美容や調理の作業場を見せてもらったが、700人近い定員がありながら、出会った方たちは少なく、落ち着いた雰囲気は漂っていた。しかし所員によれば、日常には多くの課題があり、悩む所員の退職も多いのだという。また廊下からのぞいた図書室では、外国語の書籍が並び、国際化も急速に進んでいることを実感した。

見学から数日後、同刑務所が2028年に閉鎖されると報じられた。施設の老朽化や女性刑務所の見直し背景にあるのだろう。閉鎖は一つの区切りだが、同時に新たな出発でもある。立ち直り支援がさらに充実し、多くの方が地域へ戻れる女性刑務所へ進化していくことを期待したい。



更生保護女性会との施設参観 栃木刑務所

おめでとうございます

表彰者紹介

関東地方更生保護委員会委員長表彰

志村 京子 (北本)

津田 悦子 (鴻巣)

関東地方保護司連盟会長表彰

細田 優子 (桶川)

さいたま保護観察所長表彰

小谷野 富雄 (鴻巣)

埼玉県保護司会連合会会長表彰

岩 寄 さと子 (鴻巣)
金子 佳子 (北本)
春原 明彦 (鴻巣)
長島 祥一 (鴻巣)



高校野球監督の経験と保護司活動

桶川支部 保護司 塩澤 力

私は大学まで野球を続け、教員になってから27年間高校野球の監督を務めました。選手の成長を間近で見守り、勝利した時の喜びは何よりも代えがたいものでした。その一方で、指導者にとって敗戦の日は決して慣れることのない、そして避けられない感情の日でした。選手たちの練習に打ち込む姿や、ほとんど休日を取らずに早朝からバスで県外まで遠征試合へ連れ出したことなどを思い出し、胸が苦しくなると同時に、一人になった時に、涙が止まらなくなるということを経験しました。

人間は一人では生きては行けません。選手を支える保護者やサポートしてくださる方々への感謝を忘れることも出来ません。保護司としてはまだまだ未熟ですが、対象者のこれからの人生が悔いの残らない幸せなものとなるように、少しでも協力が出来ればと考えています。



支えられた日々が、今の原点に

鴻巣支部 保護司 武藤 五郎

10代の頃、私は複雑な家庭環境と貧困の中で、将来への不安を抱えていました。そんな時、寄り添ってくれたのが一人の保護司でした。その方は行政書士でもあり、私の話を親身に聞き、さまざまな人を紹介してくれました。あの出会いが、人生の方向を変えるきっかけになりました。「あなたもいつか、人を支える側になってみては」その言葉が今も残っています。

年月を経て、私は障害福祉の仕事に携わり、行政書士となり、そして今、保護司として新たな一步を踏み出しました。保護司として、今度は私が誰かに寄り添い、もう一度前に進む力を届けたい。その恩人はすでに亡くなれましたが、感謝の気持ちは今も生き続けています。鴻巣のまちで、人と人が支え合う地域共生社会の実現を目指し、誠実に歩んでまいります。



あとがき

令和7年は暑い夏が続き、その弊害が里においてきた熊による人的被害、乾燥により山火事が頻発。初の女性総理大臣誕生と日々変化の年でした。

令和8年はメジャーリーグで活躍する大谷選手に続こうと、海を渡る日本の選手たちを見ることができそうです。

保護司活動は、変化する社会情勢のなかで味ではあるものの更生には大切なポジション。時間をかけ、寄り添い、緊張感なくつきあい、笑顔の中で話せる信頼関係を大切に日々活動が続けています。

北本支部 保護司 内田 明弘

《広報委員》
岩寄さと子・内田 明弘・大島 通人
小川 秀樹・栗原 依子・島崎 孝江
砂川 貢・津田 悦子
《発行》鴻巣地区保護司会
《編集》鴻巣地区保護司会広報部会
〒365-8601
鴻巣市中央一丁目
電話048(541)1321
鴻巣市やさしさ支援課内

